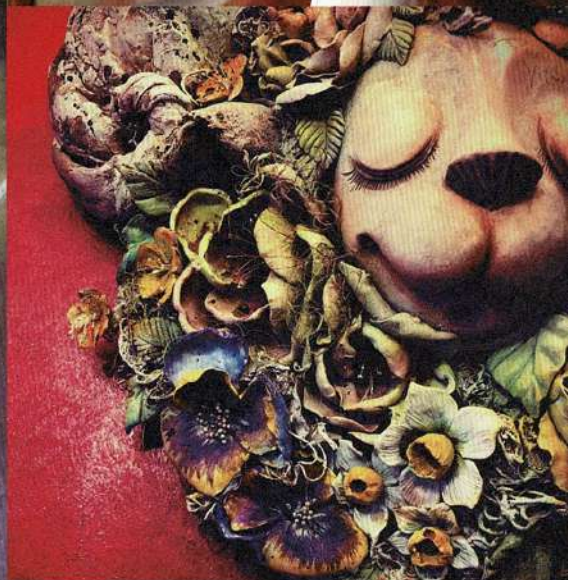


KOBAI ART AWARD

第14回

香梅アートアワード



くつろぎのごちそう



お菓子の 香梅

Wakako Sato × gaju

香梅アートアワード奨励賞

佐藤和歌子

Wakako Sato



範 2016年

佐藤和歌子氏は、日本画の伝統的な表現方法、技術に基づきながら、現代の自由な表現、世界観の確立を追求している、熊本市在住の気鋭の作家です。日本画の中で描かれてきた「花鳥風月」の世界、その自然の美しさ、生き物のありようを「今」という時代に重ね、人間の内面を深く目差しながら、過去と現在をつなぐ繊細さと大きなスケール感を併せ持つ表現で多くの人々を魅了してきました。内外での個展、グループ展での発表、受賞を重ね、中でも、ギリシア神話に基づき制作した作品《角の門》(2012年)が高く評価され、第44回日展特選を受賞されました。

また、現在は、これまでの数々の実績によって、母校である崇城大学芸術学部美術学科准教授として、後進の指導、育成にも携わっておられます。日本画の新たな表現を追求する真摯な取り組み、独自性への評価、作家としてのさらなる飛躍と熊本の文化の発展への貢献を期待し、「香梅アートアワード奨励賞」を授与します。

香梅アートアワード奨励賞

佐藤和歌子

日本画家

さとう わかこ・熊本市出身／熊本市在住
 崇城大学芸術学部准教授、日展会員、新日春展会員
 熊本県美術協会会員、熊本県美術家連盟会員、熊本県文化懇話会会員

- 2002 第34回日展入選
 2003 第58回熊本県美術協会展県美大賞
 2005 第40回日春展入選
 2006 崇城大学大学院芸術研究科修了。京展入選
 「Ars Kumamoto アルス・クモトー熊本力の現在」(熊本市現代美術館)
 2007 第6回福岡山市佐藤太清賞公募美術展入選
 2009 「熊本女性画家11人展」(企画・ギャラリー武智／崇城大学ギャラリー)
 「SoDA KIDS展」(崇城大学ギャラリー)
 「九州ゆかりの日本画家たち展」(熊本市現代美術館)
 2010 「気鋭の新世代・新グループ展 第2回清流会展」(ツイン・アート・ギャラリー／福岡市)
 「遺物の会展」(崇城大学ギャラリー)、「四季への想い展」(三点鐘)
 2011 「第三回小さな名品展」(ツイン・アート・ギャラリー／福岡市)、「SAAP-次世代の担い手たち展-」(崇城大学ギャラリー)、「SoDAx川尻」(くまもと工芸会館)
 2012 第44回日展特選、「第3回想楽SORA展」(熊本県立美術館分館)
 ハイデルベルク姉妹都市美術展(ハイデルベルクセミナーセンター／ドイツ・ハイデルベルク)
 2013 熊本県文化懇話会新人賞受賞、カブカブ展(県民百貨店)、第22回英展〜人物・風俗〜出品(田川市美術館／福岡)、第45回日展無鑑査
 2014 改組新第一回日展特選
 2015 佐藤和歌子「〜猫展〜」(長崎次郎書店 Gallery Jiro)
 青木繁「海の幸」オマーージュ展(MIZOE ART GALLERY /福岡)、
 2017 SOJO ART「展開と展望」-日本画・洋画・卒業生作品展-(鶴屋 美術画廊／熊本)
 佐藤和歌子日本画展 -夜の博物誌- (崇城大学ギャラリー)、「黎明×瑠璃」(JR名古屋タカシマヤ／愛知)、佐藤和歌子日本画展 -神話の雫- (つなぎ美術館)
 2018 SOJO ART日本画・洋画・卒業生作品展「熊本を描く」(鶴屋 美術画廊／熊本)
 第1回迎春展(不言亭／熊本)、第1回安曇野涼風扇子公募展 招待出品
 「黎明×瑠璃 ニホンガノキズナ」(加藤栄三・東一記念美術館／岐阜)
 2019 SOJO ART日本画・洋画・卒業生作品展「熊本とめでたいもの」(鶴屋 美術画廊／熊本)
 想楽展(不言亭／熊本)、「SoDA STORIES:EPISODE 19」(熊本県立美術館本館)、
 「KISSYO 現代の吉祥画展」(大阪高島屋・日本橋高島屋・JR名古屋タカシマヤ)
 2020 SOJO ART日本画・洋画・卒業生作品展(鶴屋 美術画廊／熊本)
 2021 第5回新日春展 審査員、第8回日展 審査員
 画学生から日本画家へ 崇城大学芸術学部1期生20年のKISEKI(SOJO GALLERY)
 2022 「sparkle stones 日本画の現在展」(JR名古屋タカシマヤ)
 「薫風扇子展」(大岡記念美術館・熊本)

日本画をはじめたきっかけは
 为什么呢？

高校生のとき、進学を考えるタイミングで、美術の先生から「美術で進学してはどうか？」と声をかけられました。そのような選択肢があるとは知らなかったのですが、目指したいと思いました。そして、崇城大学に芸術学部が出来るタイミングで、一期生として日本画コースに入学しました。

一期生というのは特別ですね。

専門的な勉強をしてきた人が多い中、私はゼロからのスタートで、基本的な美術の知識もなくデッサンも初心者レベルでした。授業についていくのがやっとで、吸収することばかりでした。

学生時代から大活躍でしたよね。

日本画の先生とモチーフの話をしてたら「150号描いて日展に出してみないか」と勧められ、日展のことをよくわからないまま出品したのですが、最初に描いた150号が入選しました。そして、翌年には熊本県美術協会展で県美大賞を受賞。さらに、熊本市現代美術館が企画したグループ展で、熊本を代表する若手作家の一人として、国内外で活躍する熊本ゆかりのアーティストの方々の作品と一緒に展示していただきました。あまりにも場違いのような気がしていたのですが、当時の南島館長から「作家の一人として堂々と発表しなさい」と背中を押していただきました。



角の門 2012年



フェンリルの狼 2014年



佐保姫 2021年

卒業後は、どのような道を選ばれたのですか？

大学の4年間では足りない、まだまだ出来ない、もっと学びたいと考え大学院に進みました。大学院卒業後、ギャラリー職員として勤務し、その後、崇城大学の非常勤講師として勤めました。2014年より美術学科日本画コースの専任教員として着任し、学生と共に創作を続けております。

尊敬する画家は、誰ですか？

女流日本画家の上村松園さんの描く人物の気迫に憧れています。それから、崇城大学教授で、日本画の師匠である中村賢次先生のように、大学で教えながら、日本画家として活躍できるようになることは目標のひとつです。

日本画の魅力は、どのようなところですか？

岩絵具の発色の素晴らしさと、物事の本質を描くところです。大学では留学生を受け入れているのですが、留学生たちも、日本画特有のざらざらとした岩絵具の質感と伝統的な技法に興味があるようです。

描いていて、うれしいときはどんなときですか？

98%苦しい想いをしながら描いていますが、そんな中、きれいな滲みができたとき、喜びがこみ上げてきます。また、作品を気に入っていたき、九州ファイナンスグループの新社屋に30号と150号の作品を展示いただいているのですが、そういうことは、とてもうれしいです。

アートアワード奨励賞を受賞した感想をお聞かせください。

正直、まだまだなのに、今、頂いていいのかなという想いです。

今後の目標を教えてください。

描きたいモチーフがあっても、描きはじめると苦しくなることがほとんどです。描きたいのに、描けなくて、近づけないことがつらくなります。それでも、毎日、絵筆を持つことを心がけて、出来るだけたくさん、新しい表現方法にも挑戦していきたいです。動物を描いていきたいのですが、細かい筋肉の動きなどは、しっかり視てスケッチしてからでないと描けません。写真ではダメなのです。ですから、日本にはいない動物を描くために海外にも行ってみたいです。